

社会実験実施方針の検討

安全走行支援サービス参宮橋地区社会実験検討会資料

国土技術政策総合研究所 ITS研究室
首都高速道路公団 業務部 交通管制室
平成16年12月21日

目次

1. 社会実験の目的
2. 社会実験の概要
3. 社会実験での検証項目
4. 広報内容
5. スケジュール案

1. 社会実験の目的

- VICIS車載器を活用した安全走行支援情報の提供を広く一般にPR
- 有効性を検証し今後の展開を検討

2. 社会実験の概要

(実施主体:国土技術政策総合研究所、首都高速道路公団)

①社会実験の概要(平成17年3~5月実施予定)

- ・センサーによりカーブ前方の停止・低速車両(渋滞末尾を含む)を把握。
- ・VICS電波ビーコンよりVICS車載器を利用している一般ドライバーに情報提供(簡易図形を活用)

- ・ビーコン対応VICS搭載車一日約4700台(約10%*)
- ・うち300台程度**に情報提供されることが想定

*VICS利用率(3メディア対応)首都圏最大値(警察庁調べ)

**当該箇所への渋滞末尾延伸は一日1時間程度あり、当該時間帯の日交通量に対する交通量比率を6%(ピーク比率を参考に設定)とし、うち10%がサービスをうけることができるものとした。

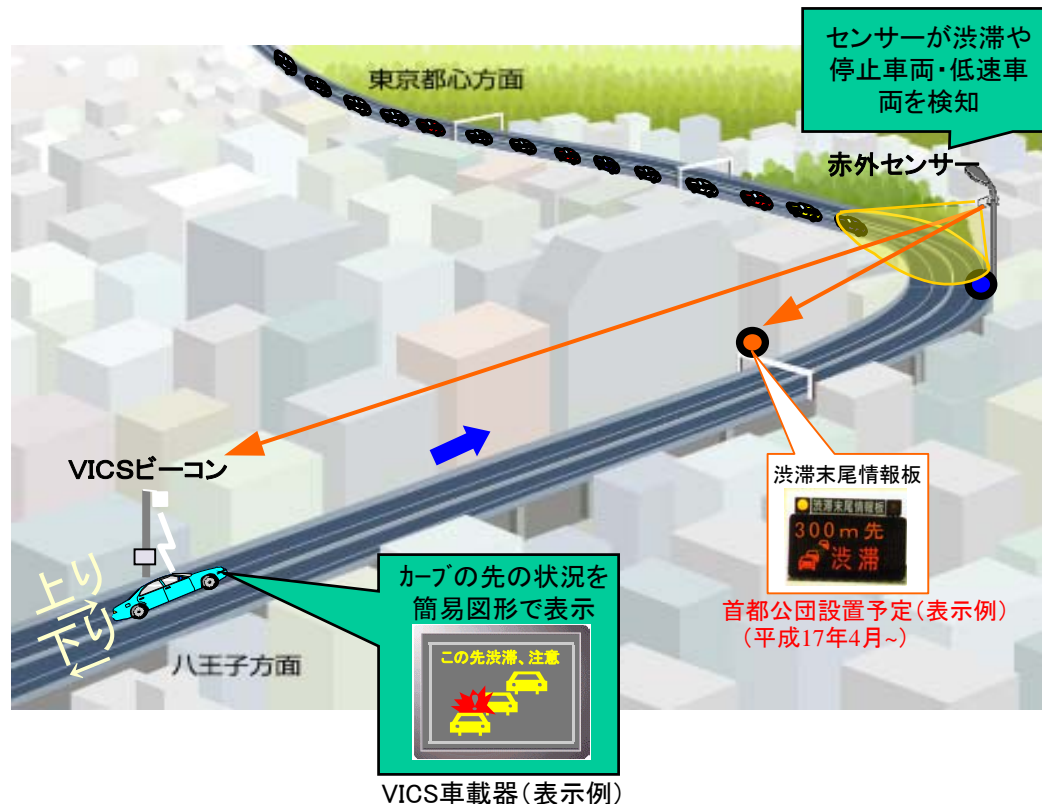
②検証項目(→P4)

- ・一般モニター(200人)によるサービスの評価
- ・カーブ進入速度・急減速発生率の評価

③広報計画(→P5)

- ・チラシ・看板・ポスター設置(料金所等)、HP
- ・車載器メーカーへの通知

参宮橋で実施するサービスの概要



- ・更に首都高速道路公団では、本センサーによるデータを用い、渋滞末尾情報板の設置による情報提供を実施予定(平成17年4月~)

3. 社会実験での検証項目

実フィールドでのサービスの有効性の検証

区分	対象	調査項目	ねらい
ドライバーからの意見収集	一般モニター200人の意見収集 (チラシ・ポスター等による公募)	情報内容の理解	ドライバーのサービスに対する意見を収集しサービスの満足度を検証
		情報内容の受け入れやすさ	
	情報確認後の行動		
	ホームページでの意見収集	上記に準ずる	
交通流の観測 (センサーデータ)	前方事象発生時に自由走行でカーブに進入する一般車両全て	カーブ進入速度の低下	交通流への影響をサービス有無で比較しサービスの実道での効果を検証
		急減速挙動発生率の低減	

4. 広報内容

タイトル

安全走行支援サービス参宮橋地区社会実験

メインメッセージ

センサーが収集した停止・低速車両情報を、3メディアVICS車載器を用いてドライバーにリアルタイムで情報提供するサービスにより、停止・低速車両に起因する事故やヒヤリハットする危険な状況を減少させることを目指します。

実施概要

実施期間： 2004年3月～5月

対象区間： 首都高速4号新宿線参宮橋カーブ上り区間

モニタ募集： 期間中、体験による意見をいただけるモニターを募集

意見募集： ホームページで意見を募集

その他： 情報板でのサービスも2004年4月から実施

5. スケジュール案

実施項目	H16		H17								
	11月	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
検討会		第1回 検討会						第2回 検討会			
VICS車載器活用(参宮橋)											
社会実験の計画	●	—————	●								
広報・モニター公募			●	—————	●						
データ収集				●	—————			●			
社会実験の実施					●	—————		●	- - - - -	- - - - -	- - - - -
アンケートの収集					●	—————		●			
評価まとめ						●	—————	●			
渋滞末尾情報板(参宮橋)の運用 (首都高速計画)						●	—————				●